



鹿児島本土地区海砂採取予定数量を審議する委員ら＝鹿児島市の県議会庁舎第1会議室で

鹿児島海砂採取対策委員会(委員長・加藤憲一、県土木部長)は25日、鹿児島市の県議会庁舎第1会議室で委員会を開き、16年度鹿児島本土地区海砂採取予定数量122万1000立方メートルとすることを承認した。

委員会で加藤委員長は「海砂は公共事業の推進には欠かすこと

土地地区海砂採取予定数量案で、指宿土木24万3000立方メートル、伊集院土木21万6000立方メートル、出水土木8万6000立方メートル、大根占土木6万7000立方メートルなどの報告が行われ、本土地区の予定数量を15年度比2%減の122万1000立方メートルとすることを全会一致で承認した。このほか、県公共事業等骨材確保対策協議会の16年度以降の骨材確保に関する見通し等について、砂の需要見込	みを29万3500立方メートルとし海砂の採取量を概ね14万7立方メートル、その他骨材を概ね14万6500立方メートルとする供給見通しのほか、シラスコンクリートの使用実績の拡大や土流土砂及びスラグ等代替骨材の実用化に努める必要があるなどの説明が行われた。
地区別採取予定数量は次の通り(カッコ内は関係市町)。	
▽大山崎(指宿市) 11万2000立方メートル	▽金比羅鼻(山川町) 13万1000立方メートル
▽辺塚(佐多町) 5万6000立方メートル	▽江口沖(日吉町) 11万6000立方メートル
▽片野坂(佐多町) 12万8000立方メートル	▽島平沖(串木野市) 10万立方メートル
▽阿久根沖(阿久根市) 8万6000立方メートル	▽阿久根沖(阿久根市) 8万6000立方メートル
▽神川(大根占町) 17万2000立方メートル	▽原・舟木(根占町) 32万立方メートル

川内土木 P I 型道づくりに挑戦

1年かけて地域住民と協議

(P-I)型の道づくりに初挑戦した。どんな工夫があったのか。

同箇所は、早くから歩道設置の要望が出されていた。しかし地域にはさまざまな意見がある。そこで同事務所では、事業廃止も視野に入れて住民に「事業の必要性そのもの」を根本から問うことを決めた。この問いかけ自



映し出された画面を見ながら道づくりについて話し合った協議会＝川内市の宮崎公民館で

調査を実施することにした。大迫熱志技術主査と新和技術コンサルタント(株)設計部の新屋保氏の協力をもらいながら、具体的に誰にもよく分かる調査表を主眼に作成し配布した。調査依頼世帯数は890世帯に及んだ。

回収率は54.4%、484世帯から回答があった。「車道整備は現状のままよりよい」が13.5%、「歩道整備は必要」と回答したのはわずか6.8%で、結果は整備の必要性を認めるものだった。

体、行政にとっては珍しい試みだった。

第1回の地区役員会で「県道宮崎地区道づくり協議会」設立が決まった。最初は1地区住民代表の集まりだったが、やがて道路周辺の3地区の公民館も参加するまで輪は広がった。協議会では、整備の必要性の有無などを盛り込んだアンケート

共同試験場設立へ 準備室設置を検討

県内の生コンなど建設資材7団体で構成する

共同試験場(会長・桑木喜行県生コンクリート工業組合理事長)は24日、鹿児島市の南国日生ビルで団体長会議を開き、共同試験場の設置に向けて協議していくことになった。

同協議会では、昨年10月に共同試験場設置検討委員会を設置し、共同試験場設置に関する検討を始めた。新しいJISの認証制度が17年度から施行されることに対応する。

した。これは効果的だった。自分たちの土地や建物があるのかは一目瞭然で、住民側が設計内容を理解するのに大いに役立った。

最終的には、整備延長は約500メートル。川内市街地に向かって左側に歩道を設置、歩道幅は施設余裕幅を入れて2.5メートル、一部歩道を両側に設置。車道は幅員6メートル、カーブはR=60にするこ

と等が住民合意で決まった。特に歩道については、当初案で片側歩道であったが、住民側の要望で約140メートルは両側歩道となった。

南九州西回り自動車道(限之城IC以北)の計画説明会が30日から川内



挨拶する長瀨さん＝鹿児島市の県歴史資料センター黎明館で

長瀨剛さんの詩画展が開幕

多くの来場者でにぎわう

九州新幹線開業記念「長瀨剛 詩画展」が、鹿児島市の県歴史資料センター黎明館で開幕した。会場は大勢の来場者でにぎわった。

同氏は九州新幹線開業記念イベントのロゴマーク「風は南から」の作成に協力を得ているほか、8月21日には桜島町赤水地区で7万人規模のオー

30日から住民説明会

市を皮切りに開催する。今回の説明会は出水市境町から阿久根市西目間(約26km)及び川内市水引町から同市都町間(約10km)について、住民の理解を深めるため道路計画の説明を行う。説明会

は次の通り。

- ▽3月30日 川内市市民会館(午後2時30分)
- ▽阿久根市市民会館(午後7時)
- ▽4月12日 野田町農村環境改善センター(午後7時)
- ▽同月13日 高尾野町農村環境改善センター(午後7時)
- ▽同月14日 出水市音楽ホール(午後7時)

お手軽で便利な購読料のお支払いは

[自動振替で]

鹿児島建設新聞

099-227-5100へ

ルナイトコンサートも予定している。また、詩画展は東京以外では鹿児島が初の個展で4月11日までの17日間行われる。

オーブニングセレモニーでは、主催者の汾陽春彦K&Mコーポレーション社長や須賀龍郎県知事が「長瀨剛さんはこれまで新幹線開業イベントをはじめ、桜島の野外コンサート(予定)等を開くなど鹿児島のために精力的に活動を行っているほか、音楽でも力強い旋律を醸し出し、近年は書画や絵画など芸術家としても活躍し高く評価されている。この詩画展が幅広い意味で鹿児島県文化、芸術を多くの観光客や県民にアピールし、かじまの魅力を堪能していただけるものと期待している」と挨拶。

シンガーソングライターの長瀨剛さんは「ほとぼるの熱い情熱と汗を感じ、五感を研ぎ澄まして何かを感じてほしい」と呼び掛けた。

次いで長瀨氏を中心にテープカットを行い、開園した。前日から開園を待ちわびた多くのファンらで長蛇の列をなしていた来場者は力強い筆使いに見入る人々があちこちで見受けられた。会場に訪れた東さんは「力強いタッチと創作風景などをみて元気をもらいました」と話した。